

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	アジア文化特論	前期	木6	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-津波 高志	1年	授業終了後に教室にて受付	

学びの準備	ねらい 韓国の文化について、濟州島の事例を通して理解する。	メッセージ 現地調査で蒐集した資料や映像をパワーポイントを用いて紹介する。
	到達目標 国全体と一地域との関係を文化の側面から理解することを目指す。	

学びの準備	到達目標 国全体と一地域との関係を文化の側面から理解することを目指す。
-------	--

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	講義全体の概要	
	2	分断国家の現状	
	3	韓国の歴史（1）	
	4	韓国の歴史（2）	
	5	韓国の言語と文字（1）	
	6	韓国の言語と文字（2）	
	7	濟州島の家族と親族（1）	
	8	濟州島の家族と親族（2）	
	9	濟州島の祖先祭祀（1）	
	10	濟州島の祖先祭祀（2）	
	11	濟州島の村落（1）	
	12	濟州島の村落（2）	
	13	濟州島の村落祭祀（1）	
	14	濟州島の村落祭祀（2）	
	15	まとめ	
16	テスト		

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 参考文献として、論文の抜き刷りを配布する。
-------	---

学びの実践	学びの手立て 講義への出席状況もテストと同程度に評価する。
-------	----------------------------------

学びの実践	評価 韓国における地方文化と国レベルの文化のギャップについての理解が測られる。
-------	--

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	英語学特論	後期	水5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	里 麻奈美	1年	開講前はm.sato@okiu.ac.jpで、開講中は授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい この講義では、『ことばと思考』をテーマに取り扱う。認知言語学における最新の英語論文を、じっくり丁寧に読み上げることで、研究の進め方（研究手法・分析方法）ならびに論文の書き方を学び、個人の研究テーマを見いだすきっかけにしたい。受講者の希望に応じ、講義内容を変更する場合もある。	メッセージ
	到達目標 この講義を受講し理解した学生は、研究を進める上で必要なロジックや研究手法、ならびに英語の論文を書く為に必要な「批判的思考」を身につけることができる。また、個人の研究テーマの足がかりを見つける事ができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	イントロダクション	講義内で適宜指示する
	2	認知言語学とは	講義内で適宜指示する
	3	ことばと思考① 【精読： テーマと結果】	講義内で適宜指示する
	4	ことばと思考① 【精読： 研究手法】	講義内で適宜指示する
	5	ことばと思考① 【ディスカッション・発展的研究の模索】	講義内で適宜指示する
	6	ことばと思考② 【精読： テーマと結果】	講義内で適宜指示する
	7	ことばと思考② 【精読： 研究手法】	講義内で適宜指示する
	8	ことばと思考② 【ディスカッション・発展的研究の模索】	講義内で適宜指示する
9	色彩語が視覚に与える影響 【精読： テーマと結果】	講義内で適宜指示する	
10	色彩語が視覚に与える影響 【精読： 研究手法】	講義内で適宜指示する	
11	色彩語が視覚に与える影響 【ディスカッション・発展的研究の模索】	講義内で適宜指示する	
12	言語がモノ認知に与える影響 【精読： テーマと結果】	講義内で適宜指示する	
13	言語がモノ認知に与える影響 【精読： 研究手法】	講義内で適宜指示する	
14	言語がモノ認知に与える影響 【ディスカッション・発展的研究の模索】	講義内で適宜指示する	
15	個別研究テーマについてのディスカッション①	講義内で適宜指示する	
16	個別研究テーマについてのディスカッション②	講義内で適宜指示する	
実践	テキスト・参考文献・資料など 講義内にて適宜配布するので、テキストの購入は必要ありません。		
	学びの手立て 履修の心構えとして、以下注意してください。 ・常に疑問を持ち、アクティブに考え、講義に参加して下さい。 ・お互いに実りのあるディスカッションができるような風通しの良いクラス作りを心がけて下さい。		
	評価 【平常点：30点】 講義内での質問・発言などを含む受講姿勢や態度 【課題：30点】 【発表：40点】		

学びの継続	次のステージ・関連科目 「社会言語学特論」
-------	--------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	英語教育学特殊研究 I	通年	月 4	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	李 イニッド	1年	By appointment only. e.lee@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>The goal of this course is to help students prepare for a master's thesis in English language teaching. Through reading and discussing current research, students will develop an awareness of the contemporary research and acquire the basic skills to conduct individual research projects.</p>	<p>This course will be taught in English and/or Japanese depending on the ability and confidence of the students. Suggested readings may vary according to students' interests and needs. Students are expected to begin library research and make necessary revisions of their thesis proposals as their knowledge and research skills increase.</p>
到達目標	<p>As a result of this course, students should have a clearer idea about the nature of academic research and writing. They will also have prepared a more developed research plan for their master's thesis and a research schedule.</p>	

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む)</p> <p>Week 1 Introduction Weeks 2-4 Overview Weeks 5-13 Selected topics: theory &amp; research Weeks 14-15 Research questions &amp; hypotheses Weeks 16-19 Research methodology Weeks 20-22 Reporting the language data Weeks 23-27 Data analysis &amp; discussion Weeks 28-30 Individual conferences Weeks 31-32 Oral presentations</p>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>To be announced in class.</p>
	<p>学びの手立て</p> <p>Regular class attendance and active participation are essential. All students are expected to comply with classroom rules, participate in class activities and discussion, and turn in homework assignments on time. Failure to do so will result in poorer grades, possibly zero points.</p>
	<p>評価</p> <p>Attendance and Class Participation (50%). Assignments &amp; Research project (50%)</p>

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>「英語教育学特殊研究II」</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	英語教育学特論 I	前期	火 6	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	クレイグ K ジャコブソン	1年	Office: 5-421 mail: jacobsen@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい This class is an introduction to English teaching with a special emphasis on teaching English as an international language.	メッセージ Students should do their best but not be too troubled if they are unable to understand everything in the readings.
	到達目標 Students should do the readings and answer the questions in the reading guide before coming to class.	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	Course Introduction and Registration	
	2	English as an international language	
	3	English as an international language	
	4	Bilingual users of English	
	5	Bilingual users of English	
	6	The native/non-native dichotomy	
	7	The native/non-native dichotomy	
	8	Standards for English as an international language	
	9	Culture in teaching English as an international language	
	10	Culture in teaching English as an international language	
	11	Culture in English language textbooks	
	12	Language learning and identity	
	13	Language learning and identity	
	14	Teaching methods and English as an international language	
15	Teaching methods and English as an international language		
16	Student presentations and course evaluation		
	テキスト・参考文献・資料など McKay, S. L. (2002). Teaching English as an International Language. Oxford: Oxford University Press. Other readings provided by the instructor. Papers should conform to the APA Publication Manual		
	学びの手立て Students should try to develop a research paper topic related to their thesis topic.		
	評価 Students will be evaluated based on attendance, participation and a research paper.		

学びの継続	次のステージ・関連科目 英語教育学特論II
-------	--------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	英語教育学特論Ⅱ	後期	火6	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	津波 聡	1年	satoshi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい To learn theories and methods of English teaching	メッセージ
	到達目標 (1) To acquire the knowledge of theories and methods of English teaching (2) To improve English proficiency through in- and out-of-class assignments in English	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	Orientation	
	2	Textbook reading & Discussion	
	3	Textbook reading & Discussion	
	4	Textbook reading & Discussion	
	5	Textbook reading & Discussion	
	6	Textbook reading & Discussion	
	7	Textbook reading & Discussion	
	8	Mid-term Exam	
9	Textbook reading & Discussion		
10	Textbook reading & Discussion		
11	Textbook reading & Discussion		
12	Textbook reading & Discussion		
13	Textbook reading & Discussion		
14	Textbook reading & Discussion		
15	Textbook reading & Discussion		
16	Final Exam		
	テキスト・参考文献・資料など Techniques and Principles in Language Teaching by Diane Larsen-Freeman (Oxford)		
	学びの手立て (1) Text must be read thoroughly before class. (2) Class will be conducted in English.		
	評価 Class Participation . . . . . 50% Tests . . . . . 30% Assignments . . . . . 20%		

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	英語論文の書き方 I	前期	月 5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	里 麻奈美	1年	開講前はm.sato@okiu.ac.jpで、開講中は授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	この講義は、英語の論文を書く為に必要な「批判的思考」と「論理的思考」を意識し、自分の主張を論述する方法の習得を目的とする。「なんとなく興味のある事」を「研究に値する課題」として設定する方法・仮説の立て方ならびに検証方法・文献の引用の仕方など、英語の論文を書くにあたって必要な知識をステップ毎に学ぶ。受講者の希望に応じ、講義内容を変更する場合もある。	
到達目標	この講義を受講し理解した学生は、英語の論文を書く為に必要な「批判的思考」と「論理的思考」を身につける事ができる。また、修士論文に必要な「課題設定・仮説設定・検証方法」などの知識が得られる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	イントロダクション	講義内で適宜指示する
	2	英語論文の書き方概要	講義内で適宜指示する
	3	研究テーマの設定の仕方・書き方①	講義内で適宜指示する
	4	研究テーマの設定の仕方・書き方②	講義内で適宜指示する
	5	研究テーマの設定の仕方・書き方③	講義内で適宜指示する
	6	仮説の立て方・書き方①	講義内で適宜指示する
	7	仮説の立て方・書き方②	講義内で適宜指示する
	8	検証の仕方(検証・実験手法)・書き方①	講義内で適宜指示する
	9	検証の仕方(検証・実験手法)・書き方②	講義内で適宜指示する
	10	先行研究の見つけ方・引用の仕方・書き方	講義内で適宜指示する
	11	個人の研究テーマ・仮説・検証の仕方に関するディスカッション①	講義内で適宜指示する
	12	個人の研究テーマ・仮説・検証の仕方に関するディスカッション②	講義内で適宜指示する
	13	個人の研究テーマ・仮説・検証の仕方に関するディスカッション③	講義内で適宜指示する
14	研究テーマに関連する先行研究の検証(批判的思考と論理的思考の意識)③	講義内で適宜指示する	
15	研究テーマに関連する先行研究の検証(批判的思考と論理的思考の意識)②	講義内で適宜指示する	
16	研究テーマに関連する先行研究の検証(批判的思考と論理的思考の意識)③	講義内で適宜指示する	
	テキスト・参考文献・資料など		
	講義開始時に指示する。		
	学びの手立て		
	履修の心構えとして、以下注意してください。 ・常に疑問を持ち、アクティブに考え、講義に参加して下さい。 ・お互いに実りのあるディスカッションができるような風通しの良いクラス作りを心がけて下さい。		
	評価		
	【平常点：30点】 講義内での質問・発言などを含む受講姿勢や態度		
	【課題：30点】		
	【発表：40点】		

学びの継続	次のステージ・関連科目 「英語論文の書き方 II」
-------	------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	英語論文の書き方Ⅱ	後期	金 5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	里 麻奈美	1年	開講前はm.sato@okiu.ac.jpで、開講中は授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい 「英語論文の書き方Ⅰ」に続き、英語の論文を書く為に必要な知識を習得する事を目的とする。分析方法の書き方、仮説に対する結果の書き方、結論・考察の書き方をステップ毎に学ぶ。受講者の希望に応じ、講義内容を変更する場合がある。	メッセージ
	到達目標 この講義を受講し理解した学生は、英語の論文を書く為に必要な「批判的思考」と「論理的思考」を身につける事ができる。また、修士論文に必要な「分析方法・結果報告のしかた・結果や考察の書き方」などの知識が得られる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	イントロダクション	講義内で適宜指示する
	2	英語論文の書き方概要	講義内で適宜指示する
	3	分析方法①	講義内で適宜指示する
	4	分析方法②	講義内で適宜指示する
	5	結果報告の仕方①	講義内で適宜指示する
	6	結果報告の仕方②	講義内で適宜指示する
	7	仮説に対する結果の書き方①	講義内で適宜指示する
	8	仮説に対する結果の書き方②	講義内で適宜指示する
9	結論・考察の書き方①	講義内で適宜指示する	
10	結論・考察の書き方②	講義内で適宜指示する	
11	個人の研究テーマに関するディスカッション①	講義内で適宜指示する	
12	個人の研究テーマに関するディスカッション②	講義内で適宜指示する	
13	個人の研究テーマに関するディスカッション③	講義内で適宜指示する	
14	研究テーマに関連する先行研究の検証(批判的思考と論理的思考の意識)①	講義内で適宜指示する	
15	研究テーマに関連する先行研究の検証(批判的思考と論理的思考の意識)②	講義内で適宜指示する	
16	研究テーマに関連する先行研究の検証(批判的思考と論理的思考の意識)③	講義内で適宜指示する	
	テキスト・参考文献・資料など 講義開始時に指示する。		
	学びの手立て 履修の心構えとして、以下注意してください。 ・常に疑問を持ち、アクティブに考え、講義に参加して下さい。 ・お互いに実りのあるディスカッションができるような風通しの良いクラス作りを心がけて下さい。		
	評価 【平常点：30点】 講義内での質問・発言などを含む受講姿勢や態度 【課題：30点】 【発表：40点】		

学びの継続	次のステージ・関連科目 修士論文の書き方の基礎的知識を学んだ後は、各自のテーマに沿った卒業論文に取り組んで下さい。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	英米演劇特論 I	前期	月 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	西原 幹子	1年		

学びの準備	ねらい 本稿では英米の作家によって書かれた劇作品の精読を通して、演劇というジャンルにおける表現形式の特徴を理解し、その読解に必要な基礎知識を習得することを目的とする。「英米演劇特論 I」では、W. シェイクスピアの悲劇と喜劇をそれぞれ一作品ずつ取り上げる。	メッセージ 受講生は毎回、指定された範囲についてまとめたレジュメを用意し、重要なせりふを和訳する。
	到達目標 演劇作品の読解に必要な基礎力を身に付けることを目標にする。英語を出来る限り正確に読む力を鍛えると同時に、イギリスにおける演劇の歴史的文化的背景について理解を深める。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画	
	回	テーマ
	1	講義説明・オリエンテーション
	2	作品①について概説
		時間外学習の内容
	3	作品①の精読
	4	作品①の精読
	5	作品①の精読
	6	作品①の精読
	7	作品①の精読
	8	先行研究論文の読解
	9	作品②について概説
	10	作品②の精読
	11	作品②の精読
	12	作品②の精読
	13	作品②の精読
	14	作品②の精読
	15	先行研究論文の読解
	16	レポート提出
	テキスト・参考文献・資料など The Riverside Shakespeare, ed. by G. Blakemore Evans (Houghton Mifflin, 1997), その他、初回の講義にて通知する。	
	学びの手立て 英和辞典、英英辞典を丁寧に引くように心がけること	
	評価 授業への貢献度と、学期末レポートによって評価する。	

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	英米演劇特論Ⅱ	後期	月3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	西原 幹子	1年		

学びの準備	ねらい 本稿では英米の作家によって書かれた劇作品の精読を通して、演劇というジャンルにおける表現形式の特徴を理解し、その読解に必要な基礎知識を習得することを目的とする。「英米演劇特論Ⅱ」では、アーサー・ミラーとテネシー・ウィリアムズの作品をそれぞれ一つずつ取り上げる予定である。	メッセージ 受講生は毎回、指定された範囲についてまとめたレジュメを用意し、重要なせりふを和訳する。
	到達目標 演劇作品の読解に必要な基礎力を身に付けることを目標にする。英語を出来る限り正確に読む力を鍛えると同時に、「英米演劇特論Ⅱ」では主として20世紀アメリカにおける演劇について理解を深める。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	講義説明・オリエンテーション	
	2	作品①について概説	
	3	作品①の精読	
	4	作品①の精読	
	5	作品①の精読	
	6	作品①の精読	
	7	作品①の精読	
	8	先行研究論文の読解	
	9	作品②について概説	
	10	作品②の精読	
	11	作品②の精読	
	12	作品②の精読	
	13	作品②の精読	
	14	作品②の精読	
	15	先行研究論文の読解	
	16	レポート提出	
	テキスト・参考文献・資料など 初回の講義で通知する。		
	学びの手立て 英和辞典、英英辞典を丁寧に引くように心がけること		
	評価 授業への貢献度と、学期末レポートによって評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	英米詩特論 I	前期	月 6	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	西原 幹子	1年		

学びの準備	ねらい 本稿では英米詩の精読を通して、押韻や比喻の使い方など、詩の読解に必要な基礎知識を習得することを目的とする。「英米詩特論 I」ではイギリス・ルネッサンス期の詩を読む。	メッセージ 受講生は指定された内容について調べ、レジュメを用意したうえで授業に臨む。その際、辞書をしっかり引いておくこと。
	到達目標 英米詩の読解に必要な基礎知識を身に付けることを目標にする。特に比喻表現においては一つの言葉に複数の意味が含まれるので、英語の辞書を丹念に調べ、多義的な解釈の可能性を踏まえつつ、英語を出来る限り正確に読む力を鍛える。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	講義説明・オリエンテーション	
	2	詩のコンベンション（約束事）について概説	
	3	Christopher Marlowe 精読 (1)	
	4	Christopher Marlowe 精読 (2)	
	5	Christopher Marlowe 精読 (3)	
	6	Christopher Marlowe 精読 (4)	
	7	W. Shakespeare 精読 (1)	
	8	W. Shakespeare 精読 (2)	
9	W. Shakespeare 精読 (3)		
10	W. Shakespeare 精読 (4)		
11	John Donne 精読 (1)		
12	John Donne 精読 (2)		
13	John Donne 精読 (3)		
14	John Donne 精読 (4)		
15	先行研究論文の読解		
16	レポート提出		
	テキスト・参考文献・資料など Penguin Book of Renaissance Verse, ed. by David Norbrook (Penguin Classics, 1993)		
	学びの手立て		
	評価 授業への貢献度と、学期末レポートにより評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	英米詩特論Ⅱ	後期	月6	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	西原 幹子	1年		

学びの準備	ねらい 本稿では英米詩の精読を通して、押韻や比喻の使い方など、詩の読解に必要な基礎知識を習得することを目的とする。「英米詩特論Ⅱ」では主としてアメリカの女流詩人を取り上げる。	メッセージ 受講生は指定された内容について調べ、レジュメを用意したうえで授業に臨む。その際、辞書をしっかり引いておくこと。
	到達目標 英米詩の読解に必要な基礎知識を身に付けることを目標にする。特に比喻表現においては一つの言葉に複数の意味が含まれるので、英語の辞書を丹念に調べ、多義的な解釈の可能性を踏まえつつ、英語を出来る限り正確に読む力を鍛える。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	講義説明・オリエンテーション	
	2	詩のコンベンション(約束事)について概説	
	3	Emily Dickinson の詩精読 (1)	
	4	Emily Dickinson の詩精読 (2)	
	5	Emily Dickinson の詩精読 (3)	
	6	Emily Dickinson の詩精読 (4)	
	7	作家とその時代について	
	8	先行研究の読解	
	9	Sylvia Plath の詩精読 (1)	
	10	Sylvia Plath の詩精読 (2)	
	11	Sylvia Plath の詩精読 (3)	
	12	Sylvia Plath の詩精読 (4)	
	13	作家とその時代について	
	14	先行研究の読解 (1)	
	15	先行研究の読解 (2)	
	16	レポート提出	
	テキスト・参考文献・資料など 初回の講義で通知する。		
	学びの手立て		
	評価 授業への貢献度と、学期末レポートで評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	英米小説特論 I	前期	火 7	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	素民喜 琢磨	1年		

学びの準備	ねらい 本講義は、「小説の読み方」に関する技術的な必須事項を修得することを目的とする。プロット、キャラクター、シンボリズム等に関して、実際の作品を読むことを通して学んでいくが、その最適な手段は、短編小説の精読であろう。そのため、本講義では、The Penguin Book of American Short Stories に収められている短編を読むこととする。個々の受講生は、各作品ごとに、あらずし、作品の	メッセージ
	到達目標	

学びの実践	学びのヒント 授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む) 上記 The Penguin Book of American Short Stories に収められている短編小説を読み進む。進度は、1 作品につき、1 回または 2 回の講義とする。
	テキスト・参考文献・資料など The Penguin Book of American Short Stories。他、必要に応じて適宜プリント教材を用いる。
	学びの手立て
	評価 毎回発表形式の講義形態をとるので、発表や発言等、講義への参加度と、作品講読後に課すレポート等により、総合的に判断する。

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	英米小説特論Ⅱ	後期	火7	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	素民喜 琢磨	1年		

学びの準備	ねらい 本講義は、前期開講の「英米小説特論Ⅰ」に引き続き、「小説の読み方」に関する技術的な必須事項を修得することを目的とする。講読作品としては、The Penguin Book of American Short Stories に収められている短編及び、その他の作品を読むこととする。個々の受講生は、各作品ごとに、あらすじ、作品のテーマや手法、その他の問題点などをまとめたレジюмеを作成し、講義に臨む。講義で	メッセージ
	到達目標	

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） 上記 The Penguin Book of American Short Stories に収められている短編小説及び、その他の作品を読み進む。進度は、1作品につき、1回または2回の講義とする。
	テキスト・参考文献・資料など The Penguin Book of American Short Stories及びプリント教材。 上記講読作品の他、適宜紹介する。
	学びの手立て
	評価 毎回発表形式の講義形態をとるので、発表や発言等、講義への参加度と、作品講読後に課すレポート等により、総合的に判断する。

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	英米批評特論 I	前期	火 6	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	追立 祐嗣	1年		

学びの準備	ねらい	メッセージ
	到達目標	

学びの準備	到達目標
-------	------

学びの実践	学びのヒント 授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む)
	テキスト・参考文献・資料など
	学びの手立て
	評価

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など
-------	----------------

学びの実践	学びの手立て
-------	--------

学びの実践	評価
-------	----

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	英米批評特論Ⅱ	後期	火6	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	追立 祐嗣	1年		

学びの準備	ねらい	メッセージ
	到達目標	

学びの準備	
-------	--

学びの実践	学びのヒント 授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む)
	テキスト・参考文献・資料など
	学びの手立て
	評価

学びの実践	
-------	--

学びの実践	
-------	--

学びの実践	
-------	--

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名 英米文化特論	期別 後期	曜日・時限 月6	単位 2
	担当者 クレイグ K ジェイコブソン	対象年次 1年	授業に関する問い合わせ Office: 5-421 mail: jacobsen@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい This course is designed to assist students in developing their skills in understanding and analyzing British and American culture with special consideration given to aspects of culture related to language and language teaching.	メッセージ If possible, students should choose a research topic related to their thesis.
-------	--	--

学びの準備	到達目標 Students should work independently on a research topic and bring any questions they might have to class.
-------	--

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	Registration and Course Introduction	
	2	Defining Culture	
	3	Language and Culture	
	4	Origins of British Culture I	
	5	Origins of British Culture II	
	6	Modern British Culture I	
	7	Modern British Culture II	
	8	International Spread of British Culture	
	9	Origins of American Culture I	
	10	Origins of American Culture II	
	11	The Dominant American Culture	
	12	American Sub Cultures I	
	13	American Sub Cultures II	
	14	British and American Culture Returns Home	
	15	Individual Consultation on Research Paper	
16	Student Presentations		

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など Readings provided by instructor. Students should prepare their written work in accordance with the APA Publication Manual.
-------	---

学びの実践	学びの手立て
-------	--------

学びの実践	評価 Students will be evaluated on attendance, participation, a research paper and an oral presentation.
-------	---

学びの継続	次のステージ・関連科目 アジア文化特論
-------	------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	英米文学特論	集中	集中	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-山本 伸	1年	yamamoto@yokkaichi-u.ac.jp にて/授業終了後教室にて	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	ブルガリアの記号学者のツヴェタン・トドロフは、16世紀のアステカ文明征服の代償としてスペイン（ヨーロッパ）人が失った「ある種のコミュニケーション」が近代社会を構築する上で深刻な失点だったと述べています。トドロフのいう「ある種のコミュニケーション」とは一体なにか。それが持つ重要な意味とは何か。カリブと沖縄の歴史や文化、社会を通して考えていきます。	「木を見て森を見ず」にはならないように、現代世界全体における日本、そして沖縄を考えるためのあくまでひとつの素材としてカリブ文学を利用します。カリブ文学を理解することによって沖縄を理解し、現代世界を理解するのが目的ですので、受講者の沖縄の視点は極めて重要です。毎回、沖縄を常に意識しながら講義を進めていきたいと思っています。
到達目標	本専攻のポリシーの三本柱は、1. 実社会で通用する高度な英語力および日本語力を有し、自らの考えを発信する能力、2. 異文化理解に基づく多文化共生を可能とし、グローバル化する国際社会に対応できる能力、3. 他領域を横断した知識を備え、自らの専門分野で修得した学問や技術を社会に還元できる応用力であるので、まずは(1)自分の考えを十分に発信できたかどうか、次に(2)カリブという異文化を十分に理解できたかどうか、さらには(3)それらの発信力と理解を沖縄というローカルティおよび自己にいかに関元して行けるのか（可能性の探究）、を明確に確認する。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス/授業説明/その他	
	2	カリブ海地域の歴史、社会、文化の概説①	
	3	カリブ海地域の歴史、社会、文化の概説②	トドロフ理論を知る
	4	トドロフ理論考察/カリブ文学におけるトドロフ理論的側面①	
	5	トドロフ理論考察/カリブ文学におけるトドロフ理論的側面②	多層的コミュニケーションについて
	6	コミュニケーションの多層性について/熊野の山里/牛井の「吉野家」①	
	7	コミュニケーションの多層性について/熊野の山里/牛井の「吉野家」②	ダンティカを原書で読む①
	8	ダンティカ原書講読①-1	
	9	ダンティカ原書講読①-2	ダンティカを原書で読む②
	10	ダンティカ原書講読②-1	
	11	ダンティカ原書講読②-2	ダンティカを原書で読む③
	12	ダンティカ原書講読③	
	13	ダンティカ原書購読の講評/まとめ	講義関連の自己テーマの発表準備
	14	課題の発表 & ディスカッション「見えないコミュニケーションの意味」①	
15	課題の発表 & ディスカッション「見えないコミュニケーションの意味」②		
16	まとめ & 試験		

実践	テキスト・参考文献・資料など テキスト：山本伸著『カリブ文学研究入門』（世界思想社）/配布プリント
----	--

学びの手立て	原書購読とありますが、ダンティカの英語はとても平易ですので心配はいりません。さらに、翻訳も併用しますので理解は深まるはず。ポイントは、カリブ海という異文化における「多層的なコミュニケーション（＝神や死者との対話、死生観、人間とは？ 生きるとは？）」を分析、理解しながら、沖縄に生きる今のこの自分というものを探求することです。授業では深みのある議論をおこなえればと思っていますので、積極的に発言できるようにご準備願います。
--------	--

評価	授業中の発言の積極性25%、自己テーマ発表25%、試験50%
----	--------------------------------

学びの継続	次のステージ・関連科目 修士論文に向けての総論的視点（より広い視野での現代世界観、他者との関連性を通しての自己、現代社会と沖縄、文化と社会、等々）を意識した研究姿勢へとつなげてほしいと思います。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	言語教育実習 I	後期	水 5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	津波 聡	1年	satoshi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい To improve teaching skills.	メッセージ
	到達目標 (1) To acquire basic knowledge of second language acquisition and English teaching. (2) To acquire basic teaching skills through class observations and teaching practicum. (3) To improve English proficiency through reading assignments and class discussions.	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	Orientation	
	2	Textbook reading & Discussion	
	3	Textbook reading & Discussion	
	4	Textbook reading & Discussion	
	5	Textbook reading & Discussion	
	6	Textbook reading & Discussion	
	7	Textbook reading & Discussion	
	8	Quiz	
	9	Class observation & discussion	
	10	Class observation & discussion	
	11	Class observation & discussion	
	12	Class observation & discussion	
	13	Workshop	
	14	Teaching Practice 1	
	15	Teaching Practice 2	
	16	Reflection	
	テキスト・参考文献・資料など Success in English Teaching by P. Davies & E. Pearse (Oxford)		
	学びの手立て Students must read assigned chapters before the class.		
	評価 Class participation . . . . . 50% Quizzes . . . . . 20% Assignments . . . . . 30%		

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	言語教育実習Ⅱ	後期	月4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	尚 真貴子	1年	syo@okiu.ac.jp 研究室 5410	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	初・中・上級の日本語教科書を教材研究し指導案を作成していく。そして、教材作成の方法や評価方法他を学んでいく。その後、模擬授業を経て、教壇に立つ。教壇実習は、本学で開講されている日本語クラスや夏期日本語研修プログラムか海外で行う。その場合は、台湾の東海大学か中国の福建師範大学、あるいはタイのパンヤーンピワット経営大学で、3週間の実習を行うことになる。	教壇実習が修士論文の内容と繋がるように実施していきましょう。
到達目標	初・中・上級の日本語教科書を教材研究し、指導案の作成ができるようになる。教壇に立ち、留学生のための日本語クラスで実習を経験し、将来は、日本国内外でも働ける人材として活躍できるようになる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション（講義概要の説明等）	
2	外国語教授法の復習		
3	初級クラスの指導法及び指導案作成		
4	初級クラスの模擬授業		
5	中・上級クラス（文法）の指導法及び指導案作成		
6	中・上級クラス（読解）の指導法及び指導案作成		
7	中・上級クラス（作文）の指導法及び指導案作成		
8	中・上級クラス（聴解・会話）の指導法及び指導案作成		
9	中・上級クラス（日本/沖縄事情）の指導法及び指導案作成		
10	中・上級クラスの模擬授業		
11	年少者のための指導法（他府県の事例）		
12	年少者のための指導法（沖縄県の実例）		
13	生活者のための日本語教育（他府県の事例）		
14	生活者のための日本語教育（沖縄県の実例）		
15	初級実習		
16	中・上級実習		
	テキスト・参考文献・資料など		
	授業開始時に指示する。 ・津田塾大学言語文化研究所（2006）『第二言語学習と個別性—ことばを学ぶ一人ひとりを理解する—』春風社 ・土屋千尋編著（2005）『つたえあう日本語教育実習 外国人集住地域でのこころみ』明石書店 ・畑佐由紀子編（2008）『外国語としての日本語教育—多角的視野に基づく試み—』くろしお出版		
	学びの手立て		
	事前に日本語教育の関する文献及び資料を熟読する。課題に関して文献調査しまとめ、必要に応じて教育現場等を訪問し、参考にする。教壇実習の前に、本学で開講されている初・中・上級クラスの授業観察もすると効果的である。		
	評価		
	出席率・授業への貢献度・課題への取り組み・模擬授業・教壇実習などから総合的に評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 実習の経験を修士論文に活かしまとめていく。県内の日本語学校で経験を積んで行くことも、次のステージへの手助けとなるうる。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	言語とメディア	後期	水6	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	兼本 敏	1年	研究室5-501 メール ; kanemoto@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい この講義は所謂マス・メディアを通じた言語を取り上げるのではない。視覚、聴覚を刺激するメディアを通して語学が学習される過程を理解し効果的な学習教材を実際に作成してもらうワークショップ型の講義となる。前半は既存の語学試験問題の分析を行う。後半は習得項目に適した教材を作成してもらう。教材は言語理論に基づき作成し、その有効性を検証する。	メッセージ 日頃から過去に自分が遭遇した言語習得に関する多種多様な測定法(テスト)に注意を向けて欲しい。
	到達目標 言語習得度を測るテストの形式が、何を測定しようとしているのか、その妥当性と補完すべき側面を推測できる洞察力を養い、実際にウェブ上で使用可能な試験を作成しデータ収集と分析に活用できる技能を習得する。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	参考文献の精読
	2	世界の言語テストの紹介と分析	参考文献の精読
	3	日本の言語テストの概要と解説	参考文献の精読
	4	日本の言語テストの概要と解説	言語テストの実際を調べる
	5	外国語の学習について	言語テストの実際を調べる
	6	外国語の学習について (対象言語を事例とする)	プロジェクトの模索
	7	e-Learning教材の紹介 既存の教材と言語学習理論の分析	試験教材の実施と分析
	8	e-Learning教材の紹介 既存の教材と言語学習理論の分析	
9	音韻・語順・語用に関するテスト問題の作成と評価・分析	対象言語のケーススタディー	
10	読解問題の作成と評価・分析	対象言語のケーススタディー	
11	ディスカッション	対象言語の選定	
12	プロジェクト(課題)の選定と方法論 ※以降、プロジェクト作成を開始する。	テスト問題の設計	
13	プロジェクト作成		
14	プロジェクト作成	プレゼンの練習	
15	完成課題のプレゼンテーションとディスカッション	プレゼンの練習	
16	完成課題のプレゼンテーションとディスカッション		
	テキスト・参考文献・資料など 講義の初日に紹介する。講義でも適宜紹介する。 関連項目は資料を配布する。 参考書籍 『世界の言語テスト』国立国語研究所編(くろしお出版) 『ことばの力学ー応用言語学への招待』白井恭弘(岩波新書) 『外国語学習の科学ー第二言語習得とは何か』白井恭弘(岩波新書)		
	学びの手立て エクセルやワードの基本的操作を必要とする。可能であればデータベースの作成ソフトや活用方法に興味を持ってもらいたい。		
	評価 作成した教材の有効性が50% 論理性と結果分析が50%		

学びの継続	次のステージ・関連科目 ウェブの利点を活用し測定試験を作成・公開し、データの収集・分析へと発展してもらいたい。 統計処理につなげてもらうことが望ましい。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	社会言語学特論	後期	木4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	李 イニッド	1年	研究室を訪問するときは必ず事前に予約を取る。e.lee@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 本講義では、社会言語学の諸分野に関する基礎知識、理論及び研究方法を学び、研究実践に繋げることを目的とする。	メッセージ ①使用言語：日本語・英語。②講義内容は受講者の興味やニーズによって変更する可能性がある。③受講者は課題として与えられた文献を精読し、レジュメにまとめて授業で発表する。論文要旨や疑問点などについてディスカッションを行う。
	到達目標 ①指定論文の輪読・発表・ディスカッションを通じて、学術論文を正確に読む・書く能力を養い、論理的・批判的思考力を育成する。 ②学んだ知識とスキルを自由な発想に基づき応用展開させる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	Introduction イン트로ダクション	各回の授業ごとに指示する
	2	What is Sociolinguistics? 社会言語学とは	"
	3	The Mirco-Macro Distinction ミクロ社会言語学とマクロ社会言語学	"
	4	Language Choice 言語の選択	"
	5	Variation & Change バリエーション・変化	"
	6	Gender & Age ジェンダー・年齢	"
	7	Ethnicity & Region 民族・地域性	"
	8	Social Class & Attitudes 社会階層・言語意識	"
9	Style, Context & Register スタイル・コンテクスト・レジスタ	"	
10	Language Contact 言語接触	"	
11	Language Maintenance, Shift & Endangerment 言語の維持・シフト・消滅危機	"	
12	Language Policy and Planning 言語政策と計画	"	
13	Applied Sociolinguistics (1) 応用社会言語学 (1)	"	
14	Applied Sociolinguistics (2) 応用社会言語学 (2)	"	
15	Research Project (1) 研究計画 (1)	"	
16	Research Project (2) 研究計画 (2)	"	
	テキスト・参考文献・資料など 配布資料 (英語・日本語)		
	学びの手立て ①課題提出期限の厳守。②毎回課題論文を読んだ上で議論に積極的に参加する。自分なりの意見をもって授業に挑むための準備を行うことが必要。③学期末レポートの発表と提出があるので、早めに準備を行い、先行研究を調べておくことを強く勧める。		
	評価 出席率及び授業参加態度(50%)、レポート及び口頭発表(50%)により総合的に評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 「マルチリンガル教育特論」、 「英語学特論」、 「日本語学特論」
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	多文化間教育特論	前期	水 5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-伊佐 雅子	1年	isa@ocjc.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	異文化コミュニケーションの基礎概念と理論を学び、異文化摩擦の事例を通じて、家庭・学校・職場・地域社会・外国で日常的に起こりうる異文化間の誤解や摩擦を超えて、多文化社会で生きる上で必須となる実践的な対話力・人間関係力を養成する。	新聞や本を読み、国内や海外での多文化共生の問題を自分のこととして考えられる想像力が大事です。授業では考える力をつけるために、異文化の事例分析をし、またテーマに関する論文を読みます。

到達目標
1. 異文化背景をもつ人とのコミュニケーションに影響を与える基礎概念と理論を学ぶことができる。 2. 自分とは異なる常識やコミュニケーション・スタイルを認識できる。 3. 異質な他者との対話型コミュニケーションに必要な知識・スキル・態度を培う。

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	多文化社会に生きる上で、なぜ異文化コミュニケーションが必要か。	シラバスをよく読むこと
	2	コミュニケーションと文化	資料を読む
	3	言語と会話スタイル①言語	テキスト第1章を読む
	4	言語と会話スタイル②会話スタイル	テキスト第1章を読む
	5	非言語コミュニケーション	テキスト第2章を読む
	6	心理的要因（社会的認知、ステレオタイプ、偏見と差別）	テキスト第3章を読む
	7	カルチャーショック：留学生の異文化適応と帰国文化適応の問題	テキスト第3章を読む
	8	価値観	テキスト第4章を読む
	9	スキーマ理論と異文化コミュニケーション	テキスト第6章を読む
	10	文化とアイデンティティ：国際結婚	論文を読む
	11	グローバル化と英語教育－異文化コミュニケーションにおける言語選択	論文を読む
	12	多様な言語文化観を持った英語教員の育成	論文を読む
	13	インターカルチュラル教育としての日本語教育：多文化共生のコミュニケーション	論文を読む
	14	共文化コミュニケーション（世代間、性的マイノリティ、障がい者）	論文を読む
15	沖縄における多文化共生の問題（アメラジアン、海外につながる子どもの教育）	論文と本を読む	
16	未来をつくる教育（ESD）：ESDにおける共生（課題提出）	論文を読む	

実践	テキスト・参考文献・資料など
	◎久米昭元・長谷川典子『ケースで学ぶ異文化コミュニケーション』有斐閣 ◎西田ひろ子編『異文化コミュニケーション入門』創元社 伊佐雅子編『（改訂新版）多文化社会と異文化コミュニケーション』三修社

学びの手立て	(履修の心得)
	・少人数のクラスなので、欠席する場合は連絡すること。 ・予習はしておくこと。 ・プレゼン担当の方は責任をもってやってくること。 ・課題レポートの提出期限を守ること。

評価	・毎回、授業では課題の発表がありますので、プレゼンの準備と発表（30%）とディスカッション（20%）と、課題提出（50%）。
----	--

学びの継続	次のステージ・関連科目
	本講義を履修した後は、言語教育学領域の専門科目（英語教育学、日本語教育学、社会言語学、マルチリンガル教育特論）を受講し、グローバル化する国際社会に対応できる能力を養う。

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	日本語学特論	前期	月4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	下地 賀代子	1年	5-401(研究室) kshimoji@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい この授業では、現代日本語の文法論における様々なカテゴリーについて理解を深めることを目的とします。現在の日本語文法は、学校教育現場と研究との間で生じているズレなど、その位置づけに関して様々な問題を孕んでいます。関連文献を精読し、それぞれのカテゴリーに関する議論の流れをふまえた上で、問題点についての報告とディスカッションを行います。	メッセージ 活発な議論を期待しています。
	到達目標 ・日本語文法論に関する学問的動向を理解し、専門的な知識を身に付ける。	

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p><u>授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む)</u></p> <p>おおむね以下のように進めていきます。</p> <p>ガイダンス 日本語文法論の基礎的事項の概説および確認 検討するカテゴリーの選択 文献の精読 以下の項目に関する報告 ・選択した内容に関する先行研究の分析 ・疑問点、問題点 報告内容に関するディスカッション レポートについて</p> <p>なお、受講人数によって報告の回数を決定します。</p>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>・テキストは使用しません。講義内において資料を紹介、または配布します。</p>
	<p>学びの手立て</p> <p>・各自の興味関心に基づいて報告対象とするカテゴリーを決めていきます。修士論文に関わらせのもよいです。 ・受講人数によっては複数回の報告を求める場合があります。</p>
	<p>評価</p> <p>報告およびレポートの内容、討議への参加態度を総合的に判断します。</p>

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	日本語教育学特殊研究 I	通年	火 3	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	大城 朋子	1年	tomokoo@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい まず、日本語教育分野の先行研究について基礎的知識から専門的見識まで見識を深めていく。そして、研究計画書に基づき、研究テーマ、目的、意義をしばり、先行研究を読み込み、研究を進めていく上で必要となる一連の手法を習得していく。その後、調査の方法を絞り予備調査の実施まで行う。	メッセージ まずは先行研究に多くを学んでください。その際には、批判的に読み、問題点や課題も読み取って行ってください。そして、調査は何度も行えるわけではないので、用意周到に目的や手法を整えた上で実施につなげてください。
	到達目標 ・日本語教育研究の基本図書や論文等を分析的に読み込み、テーマと研究方法を絞っていく。 ・研究や調査の実現性を確認し、独自性や有益性の検証を行い、予備調査まで行う。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション（本学期的目標や講義の進め方の確認他）	
	2	研究目的・意義について討議し、研究テーマの確認を行い、研究計画書を作成する。	
	3	日本語教育研究の基礎	
	4	テーマに沿った参考文献、資料のリストの作成。	
	5	先行研究の博捜と読み込み（報告）①	
	6	先行研究の博捜と読み込み（報告）②	
	7	先行研究の博捜と読み込み（報告）③	
	8	先行研究の博捜と読み込み（報告）④	
	9	夏期休暇中の調査・研究の実施状況の報告	
	10	テーマの再確認、修論提出までの作業計画や修論概要を作成する。	
	11	構成を確認し、論旨の一貫性や論文の独創性について考える。	
	12	研究手法の検討、必要とされるステップの把握と確認	
	13	予備調査のための調査票を作成し実施	
14	予備調査の結果とまとめ		
15	学会発表の準備		
16	夏期休暇中の調査・研究計画を作成		
	テキスト・参考文献・資料など テーマに沿って博捜した論文各種をテキストとする。 竹内理・水本篤（2012）『外国語教育研究ハンドブッカー研究手法のより良い理解のために』松柏社 中井精一編（205）『社会言語学の調査と研究の技法 フィールドワークとデータ整理の基本』おうふう他		
	学びの手立て 研究を進めていくには、まず先人が成した研究を学ばなければなりません。そのためにも、専門書を数多く読み込むことで複眼的な視点を養い、研究を究めて行ってください。		
	評価 出席状況、論文の読み込み、本調査実施までの一連の手法の実施、報告やレポート等を総合的に判断して評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 後期には、構成を整え方法論を再確認にし、調査結果を導きだして行ってほしい。
-------	--

※ポリシーとの関連性 学術的な手法で社会に必要な専門的技術を高いレベルまで磨き、専門家として地域社会と交流し貢献できる人材を育成していく。

[ /演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	日本語教育学特殊研究Ⅱ	通年	火4	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	大城 朋子	2年	tomokoo@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 専門的見識を深め、課題や問題点を発見しながら検証を重ね分析・考察を行い結論を導き出す。研究の意義、そして、独自性をしっかり意識しながら進めていく。	メッセージ 関連分野の論文や文献を更に分析的に読み進め、それを各自の論文で議論や比較検証を行い、結論・考察・まとめを導いていってください。社会貢献につながるような独創的で意義のある研究を完成させてください。
	到達目標 ・数多の先行研究で見いだされた研究結果と各自の調査研究手法や結論等とを複眼的に比較分析し、論理の一貫性等を検証していく。 ・課題や問題点の見直し・推敲を重ね、研究の独自性や有益性の検証を重ねた上で結論や考察を導き、まとめていく。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画	
	回	テーマ
	1	春期休暇中の調査・研究の実施状況の報告
	2	論文構成の吟味。論理的な一貫性、実証性、体系的性を踏まえて論文の全体構成を再点検する。
	3	7月の発表に向けて研究成果をまとめていく。
	4	〃
	5	〃
	6	〃
	7	中間報告の批評・批判等を踏まえて課題を確認し、計画を再確認する。
	8	夏期休暇中の調査・研究計画の報告
	9	夏期休暇中の調査・研究の実施状況の報告
	10	修論の作成を進め、章ごとに報告・提出する。
	11	内容の独創性、論理的一貫性の再確認及び書式の点検
	12	12月の講義終了までに修論を仮提出する。(指導教員及び論文審査担当教員に提出)
	13	修論の手直し
	14	本提出
	15	最終口頭試験に向けて
	16	学会誌への投稿
	テキスト・参考文献・資料など 関連資料等は適宜配布し指導を行うが、基本的には各自が参考文献や論文を見だし、議論の場に提供する。	
	学びの手立て 専門書を数多く読み込み、専門教員の指導や同志との意見交換や議論から学び、複眼的な視点を持って検証・推敲を重ね結論を導いていってください。	
	評価 研究の内容や研究手法、そして結論を導き出すまでの論文執筆に関わる一連の取り組みを総合的に判断し評価する。	

学びの継続	次のステージ・関連科目 次のステージは、社会あるいは博士課程ということになるので、院で研究を深めた専門的内容をそれぞれの分野でのニーズや進展に応えられるよう貢献していってください。
-------	---

※ポリシーとの関連性

専門分野の知識やスキルに加え、他分野への関心や知識も取り入れることができる応用力をバランスよく備えた人材を育成する。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	日本語教育学特論 I	前期	月 5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	李 ヒョンジョン	1年	hlee@okiu.ac.jp 講義の前後にも受け付ける。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	この講義では、今日における「社会・言語・文化」の関連という観点から日本語教育とは何かを考えていく。教員による講義に加えて文献購読およびディスカッションを交えながら、日本語教育学を学ぶうえで必要とされる知識・態度について考察する。また、講義や文献などを通して自分なりの教育的視点をしっかり持つことで、日本語教育世界に対する意識を高めていくことを目指す。	多文化共生社会における日本語教育では、新たな教育観や新たな教師と学習者の関係作りなどが求められています。この講義を通して、学生に「伝授する・させる」ではなく、「共に見つける」教育を考えていきましょう！
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文献購読とディスカッションを通して、日本語教育学の動向を把握する。</li> <li>・文献を批判的に読んで考察することで、自らの教育観を再認識する。</li> <li>・日本語教育の様々な領域における現状問題と課題を見つける。</li> </ul>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	
	2	言語とは、外国語とは、日本語教育とは？	レジュメ作成・報告準備
	3	日本語教育の世界	レジュメ作成・報告準備
	4	世界の日本語教育	レジュメ作成・報告準備
	5	ミニ発表①	
	6	外国語教授法の流れと現在	レジュメ作成・報告準備
	7	何を教えるか	レジュメ作成・報告準備
8	どう教えるか	レジュメ作成・報告準備	
9	どう評価するか	レジュメ作成・報告準備	
10	ミニ発表②		
11	学習リソース	レジュメ作成・報告準備	
12	日本語教師とリソース	レジュメ作成・報告準備	
13	日本語学習者とリソース	レジュメ作成・報告準備	
14	教師と学習者	レジュメ作成・報告準備	
15	ミニ発表③		
16	まとめ		
実践	テキスト・参考文献・資料など 随時プリントを配布する。 ・国立国語研究所 編 (2006) 『日本語教育の新たな文脈』アルク ・遠藤織枝 (2011) 『日本語教育を学ぶ - 第二版 - 』三修社 など		
	学びの手立て ・講義で扱う文献の他に、日本語教育学に関連する文献をできるだけ読み込むことで、日本語教育の全般における知識やスキルを把握しましょう。 ・関連研究会や学会などにも興味を持つことで、日本語教育の動向を把握しましょう。 ・講義を通して得た視点を、自分の研究内容および手法にしっかりつなげていきましょう。		
	評価 文献購読と報告・ディスカッション (50%)、ミニ発表およびレポートなど (50%)		

学びの継続	次のステージ・関連科目 後期の「日本語教育学特論Ⅱ」も受講すること。
-------	---------------------------------------

※ポリシーとの関連性

専門分野の知識やスキルに加え、他分野への関心や知識も取り入れることができる応用力をバランスよく備えた人材を育成する。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	日本語教育学特論Ⅱ	後期	月5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	李 ヒョンジョン	1年	hlee@okiu.ac.jp 講義の前後も受け付ける。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	「日本語教育学特論Ⅰ」に続き、今日における日本語教育とは何かについて考えていく。多文化共生時代の到来とともに変化しつつある今日、日本語教育世界でも従来とは異なる学習目標・環境および支援方法が求められている。この講義は、今日における日本語教育のあり方について考察していくことで、日本語教育学における新たな視点を持つことがねらいである。	多文化共生社会における日本語教育では、新たな教育観や新たな教師と学習者の関係作りなどが求められています。この講義を通して、学生に「伝授する・させる」ではなく、「共に見つける」教育を考えていきましょう！
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>文献購読とディスカッションを通して、日本語教育学の動向を把握する。</li> <li>日本語教育における多様性を認識し、現状問題と課題を新たな教育観で考察していく。</li> </ul>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	
	2	日本語・日本語教育とは何か	レジュメ作成・報告準備
	3	自らの言語教育観を持つ	レジュメ作成・報告準備
	4	多様化する日本語教育環境	レジュメ作成・報告準備
	5	ミニ発表①	
	6	今日における日本語教育事情	レジュメ作成・報告準備
	7	多文化共生と日本語教育	レジュメ作成・報告準備
8	構成主義の日本語教育	レジュメ作成・報告準備	
9	学習者主体と自律学習	レジュメ作成・報告準備	
10	ミニ発表②		
11	IT社会と日本語教育	レジュメ作成・報告準備	
12	日本語教育と日本語研究の関係	レジュメ作成・報告準備	
13	実践研究の方法	レジュメ作成・報告準備	
14	社会参加を目指す日本語教育	レジュメ作成・報告準備	
15	ミニ発表③		
16	まとめ		
テキスト・参考文献・資料など	随時プリントを配布する。 ・佐々木倫子 他 (2007) 『変貌する言語教育-多言語・多文化社会のリテラシーとは何か-』くろしお出版 ・末田清子 編 (2011) 『コミュニケーション研究法』ナカニシヤ出版 ・蒲谷宏、細川英雄 (2012) 『日本語教育学序説』朝倉書店 など		
学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> <li>文献購読や講義などに留まらず、関連研究会や学会などにも興味を持つことで、日本語教育の動向を把握しましょう。</li> <li>講義を通して得た視点を、自分の研究内容および手法にしっかりつなげていきましょう。</li> </ul>		
評価	文献購読と報告・ディスカッション (50%)、ミニ発表およびレポートなど (50%)		

学びの継続	次のステージ・関連科目
	<ul style="list-style-type: none"> <li>「言語教育実習Ⅱ」を通して実践的スキルを養いましょう。</li> <li>特殊研究を通して修士論文作成に力を入れていきましょう。</li> </ul>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	日本語論文の書き方 I	前期	金 5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-高橋 美奈子	1 年	minakot@edu. u-ryukyu. ac. jp	

学びの準備	ねらい “この授業では、日本語で修士論文を書くために必要な知識・技能を習得することを目的とする。具体的に前期では、論文の定義や実質的条件を学び、その上で、論文の形式的条件、例えば、論文の組み立て方や論文を書くために知っておくべきルールを学ぶ。最終的には自身の修士論文のテーマに沿った論文構成の作成を目指す。”	メッセージ 修士論文の研究内容については、ゼミ指導教員の先生方にお任せしますが、論文の形式的な側面については、少しでも力になれたらと思っております。修士論文提出までがんばりましょう。
	到達目標 1. 論文と他の文章の違いを理解できる。 2. 論文執筆までの手順がわかる。 3. 論文の構成や体裁など、論文の形式的なルールについて理解できる。 4. 論文を書くために必要な文献収集や図書館の使い方などがわかる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	
	2	論文とは何か	
	3	論文作成のための具体的な手順	
	4	論文の構成 1	
	5	論文の構成 2	
	6	論文を書くためのルール 1	
	7	論文を書くためのルール 2	
	8	論文を書くためのルール 3	
	9	論文を書くためのルール 4	
	10	文献・資料の収集法 1	
	11	文献・資料の収集法 2	
	12	文献・資料の収集法 3	
	13	論文構成の作成 1	
	14	論文構成の作成 2	
15	論文構成の作成 3		
16	論文構成と論文執筆計画の提出		
実践	テキスト・参考文献・資料など “木下是雄 (1994) 『レポートの組み立て方』ちくま学芸文庫 斉藤孝 (1998) 『学術論文の技法』日本エディタースクール出版部 浜田麻里 他 (1997) 『大学生と留学生のための論文ワークブック』くろしお出版 新堀聡 (2002) 『評価される博士・修士・卒業論文の書き方考え方』同文館 道田泰司・宮元博章 (1999) 『クリティカル進化論』北大路書房 細川英雄 (2008) 『論文作成デザイン』東京図書”		
	学びの手立て 基本的に欠席連絡や講義の質問等、連絡事項はメールでお願いします。欠席する場合には、事前にメールで連絡してください。また、欠席当日が課題提出日の場合には、メールでその翌日までに提出してください。		
	評価 1. 平常点 (60点) : 各回の課題提出、議論、発表などの評価 2. 最終レポート (40点) : 修士論文の構想レジュメならびに「論文とは何か」のレポートの提出による評価		

学びの継続	次のステージ・関連科目 後期の「日本語論文の書き方II」はこの科目の継続科目です。「日本語論文の書き方II」では、前期に学んだことを実践していきますので、適宜、テキストや参考文献等をよく読み、復習をしておいてください。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	日本語論文の書き方Ⅱ	後期	火4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-高橋 美奈子	1年	minakot@edu.u-ryukyu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>この授業では、前期の「日本語論文の書き方I」に引き続き、日本語で修士論文を書くために必要な知識・技能を習得することを目的とする。具体的に前期で作成した論文構想に従って、論文の草稿（序論）を執筆することを目指す。さらに、修士論文の一部を研究会で発表あるいは紀要等の研究雑誌論文への投稿を目指す。</p>	<p>修士論文の研究内容については、ゼミ指導教員の先生方にお任せしますが、論文の形式的な側面については、少しでも力になればと思います。修士論文提出までがんばりましょう。</p>

学びの準備	到達目標
	<ol style="list-style-type: none"> <li>論文に必要な先行研究の収集ができる。</li> <li>論文の形式的なルール（引用の仕方、論文構成、注の書き方など）に従って、論文を書くことができる。</li> <li>論文の序論を書くことができる。</li> <li>研究会や学会等の発表要領、紀要等の研究論文執筆要領を理解し、それに従った申請書を書くことができる。</li> </ol>

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	
	2	論文の構想発表	
	3	「研究テーマ」（テーマ設定の理由）を書いてみよう	
	4	「研究の目的と方法」を書いてみよう1	
	5	「研究の目的と方法」を書いてみよう2	
	6	「研究背景」（先行研究）を書いてみよう1	
	7	「研究背景」（先行研究）を書いてみよう2	
	8	「研究背景」（先行研究）を書いてみよう3	
	9	「はじめに」と「序論」をまとめてみよう1	
	10	「はじめに」と「序論」をまとめてみよう1	
	11	「はじめに」と「序論」をまとめてみよう1	
	12	扱うデータを紹介してみよう	
	13	データの分析をしてみよう1	
	14	データの分析をしてみよう2	
15	データの提示の仕方を工夫してみよう		
16	論文の「序論」の発表・提出		

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など
	<p>木下是雄（1994）『レポートの組み立て方』ちくま学芸文庫          斉藤孝（1998）『学術論文の技法』日本エディタースクール出版部          浜田麻里 他（1997）『大学生と留学生のための論文ワークブック』くろしお出版          新堀聡（2002）『評価される博士・修士・卒業論文の書き方考え方』同文館          道田泰司・宮元博章（1999）『クリティカル進化論』北大路書房          細川英雄（2008）『論文作成デザイン』東京図書</p>

学びの実践	学びの手立て
	<p>基本的に欠席連絡や講義の質問等、連絡事項はメールでお願いします。欠席する場合には、事前にメールで連絡してください。また、欠席当日が課題提出日の場合には、メールでその翌日までに提出してください。</p>

学びの実践	評価
	<ol style="list-style-type: none"> <li>平常点（60点）：各回の課題提出、議論、発表などの評価</li> <li>最終レポート（40点）：修士論文の「序論」および研究会発表要旨・紀要等への研究要旨の提出による評価</li> </ol>

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>次なるステージは、やはり修士論文の執筆です。データの収集・分析・考察などかなり時間を要しますが楽しい作業です。がんばってください。</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	米文学特殊研究 I	通年	水 6	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	追立 祐嗣	1年		
学びの準備	ねらい 本演習では、まず修士論文執筆のための技術的な必須事項を確認した後、個々の受講生の論文テーマの設定、資料の収集、アウトラインの作成等の作業に対して指導を行う。また同時に、実際にアメリカ文学の作品を熟読し、作品のテーマや手法を中心に考察し、併せて作品に関する批評を検討する。	メッセージ		
	到達目標			
学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）  修士論文執筆に関する指導は、必要に応じて随時行う。実際の講義においては、アフリカ系アメリカ人の文学を中心に、「二重意識」の問題に焦点を当てた作品である、Richard Wright 著『Native Son』、Ralph Ellison 著『Invisible Man』、Toni Morrison 著『The Bluest Eye』等の講読を予定している。但し、受講生の修士論文執筆予定の分野からの作品講読も、個別に相談の上、検討する。			
	テキスト・参考文献・資料など Richard Wright 『Native Son』、その他。 上記講読作品の他、適宜紹介する。			
	学びの手立て			
	評価 毎回発表形式の講義形態をとるので、発表や発言等、講義への参加度と、作品講読後に課すレポート等により、総合的に判断する。			
学びの継続	次のステージ・関連科目			

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	マルチリンガル教育特論	前期	木4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	李 イニッド	1年	研究室を訪問ときは必ず事前に予約を取ること。e.lee@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>A general introduction to the study of multilingualism and multilingual education. Students will gain an understanding of the key perspectives that have been posed about multilingualism, issues surrounding the teaching and learning of a 2nd or 3rd language, and practices in diverse social and educational contexts around the world.</p> <p>到達目標</p> <p>①指定論文の輪読・発表・ディスカッションを通じて、学術論文を正確に読む・書く能力を養い、理論的思考力を高める。②学んだ知識とスキルを応用して何らかの実証研究を行うことができる。</p>	<p>①使用言語：日本語・英語。②講義内容は受講者の興味やニーズによって変更する可能性がある。③受講者は課題として与えられた文献を精読し、レジュメにまとめて授業で発表する。論文要旨や疑問点などについてディスカッションを行う。</p>

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	Introduction イン트로ダクション	各回の授業ごとに指示する。
	2	Terminological inconsistencies 用語の定義 (1)	”
	3	Becoming multilingual 多言語習得 (1)	”
	4	Becoming multilingual 多言語習得 (2)	”
	5	Staying multilingual 多言語能力の維持 (1)	”
	6	Staying multilingual 多言語能力の維持 (2)	”
	7	Acting multilingual 多言語使用・混用 (1)	”
8	Acting multilingual 多言語使用・混用 (2)	”	
9	Multilingual society & negotiation of identities 多言語社会とアイデンティティ (1)	”	
10	Multilingual society & negotiation of identities 多言語社会とアイデンティティ (2)	”	
11	Multilingualism in education 教育現場における多言語化の現状と課題 (1)	”	
12	Multilingualism in education 教育現場における多言語化の現状と課題 (2)	”	
13	Students and teachers in the multilingual classroom 多言語教室の実態 (1)	”	
14	Students and teachers in the multilingual classroom 多言語教室の実態 (2)	”	
15	Research topics 研究課題 (1)	”	
16	Research topics 研究課題 (2)	”	
	テキスト・参考文献・資料など 配布資料 (英語・日本語)		
	学びの手立て	①課題提出期限の厳守。②毎回課題論文を読んだ上で議論に積極的に参加する。自分なりの意見をもって授業に挑むための準備を行うことが必要。③学期末レポートの発表と提出があるので、早めに準備を行い、先行研究を調べておくことを強く勧める。	
	評価	出席率及び授業参加態度(50%)、レポート及び口頭発表(50%)により総合的に評価する。	

学びの継続	次のステージ・関連科目 「社会言語学特論」、「英語学特論」、「日本語学特論」
-------	---

※ポリシーとの関連性 ヨーロッパ連合の形成によって、多言語、多文化の共生社会を求め  
ていかなばならないヨーロッパを知ることは、異文化理解を促す。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ヨーロッパ文化特論	後期	木6	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-漆谷 克秀	1年	授業終了後の受け付ける。	

学びの準備	ねらい 「多様性の中の統一」という理念でヨーロッパ連合の試みが実行されている。戦争の世紀を経てきた反省から「対話」による平和の希求、「文化的多元性の尊重」、そのような理念を支える文化的、思想的、地域的基盤を考える。	メッセージ 現代社会は、議会制民主主義、市場経済にもとづく資本主義の枠組のうちに成立している。この枠組を形成し、先導してきたのがヨーロッパである。現在のヨーロッパの取り組みを考えることは、将来の日本の形成につながっていくと認識できるでしょう。
	到達目標 「多様性の中の統一」という理念によるヨーロッパ連合の形成は今も続いている。そのために、どのような努力が払われてきたか、また、現在もどのような努力が払われているか、を知る。其れを可能とした文化的、宗教的、地域的な基盤とその差異を併せて知るようになる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画	
	回	テーマ
	1	講義説明、オリエンテーション
	2	「ヨーロッパ」の概念の変遷、ヨーロッパを再考
	3	EUの歴史と現在
	4	ヨーロッパ諸言語の歴史的親近性
	5	EUにおける多言語主義
	6	ヨーロッパ諸文化の神話と民話
	7	近代ヨーロッパ社会における音楽と文学
	8	二大思想潮流から辿るヨーロッパ思想史①
9	二大思想潮流から辿るヨーロッパ思想史②	
10	ヨーロッパにおけるキリスト教の変遷	
11	キリスト教諸宗派の比較	
12	19世紀末からのヨーロッパのモダニズム芸術の誕生と変遷	
13	女性芸術家たち、ジェンダーの視点	
14	日欧交流史	
15	ヨーロッパとはなにか、EUの試みは成功するか	
16	レポート提出	
	テキスト・参考文献・資料など 『ヨーロッパ学入門（改訂版）』武蔵大学人文学部ヨーロッパ比較文化学科編（朝日出版）	
	学びの手立て 「なにか?」、「なぜか?」という知的な好奇心を持ってください。	
	評価 授業への貢献度、学期末のレポートで評価。	

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------